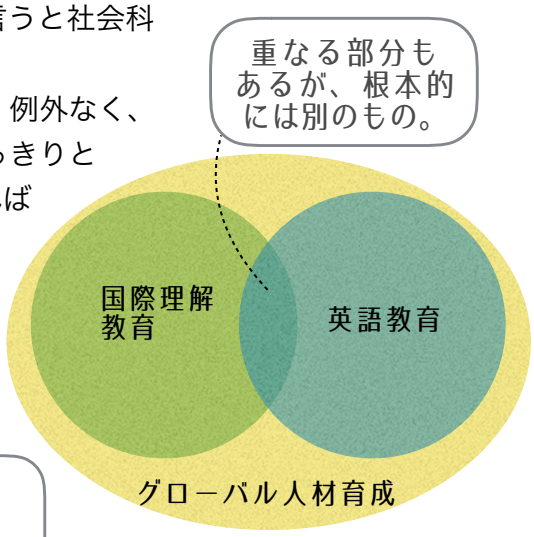
世界のミカタイムズ

発行：学校から世界のミカタを考える会

GWは楽しめました？日本って長期休暇を取りにくい風土がありますよね・・・

国際理解教育って要するに英語教育なの？！

表題のような捉え方をしている教育関係者が多いように感じます。
しかし、単刀直入にいうと国際理解教育は英語教育ではありません。
英語教育は英語科の活動です。国際理解教育は教科で言うと社会科や道徳科に近いものです。
グローバル人材の育成が社会全体の今日的課題であり、例外なく、学校教育にも求められていることは学習指導要領にもはっきりと示されているところです。そして、もちろん英語が話せればグローバル人材であるという単純な話ではありません。



国際理解教育は、世界の様々な事象について知り、問題に気づき、考え、行動するための教育活動です。

世界を知る → 問題に気づき考える → 行動する

教科で言うと社会科に近いといいましたが、国際理解教育が対峙するテーマは教科書に書いてある過去の出来事ではなく、変化し続けている社会そのものです。つまり、問いはたくさんありますが答えがありません。その都度、自分たちで考える必要があります。また、考える過程において参加型学習（アクティブラーニング）の手法を用いるので学習に主体性を持たせることができ、リーダーシップや、コミュニケーション能力、問題解決能力、将来の夢など、教科の学習だけではなかなか伸ばしにくい力を育むことができます。
今の子どもたちはこれから先、進学や就職を考えるときにリーダーシップや、思考力、問題解決能力などの「人間にしかできない力」をこれまで以上に問われる世代です。
だから、コミュニケーションツールの一つである英語を身につけるための教育活動（英語教育）と同じく、あるいはそれ以上に大切なのが国際理解教育であり、これらの活動同士は同一視できるものではなく、お互いに補完しあう中で、グローバル人材を育成していく必要があるとミカタは考えています。

学校から世界のミカタを考える会

ミカタブラックのぼやき

先日、イノシシを食べました。
肉厚のピンク色を鉄板にのせ、塩コショウを振って焼くととてもいい香りがします。そして味は、もう感動もの！今まで食べたどの肉よりもおいしかったです。牛や豚、鶏に勝るとも劣らぬその味は私の肉の世界を広げてくれました。
さて、最近はジビエという言葉がだいぶ定着してきたようです。我々の食べている肉のほとんどは畜産農家によって育てられたものですが、それに対してジビエは狩猟された野生の動物の肉を指します。動物がかわいそうと思われる方もいるかもしれませんが、狩猟は昔から世界のあちこちで行われてきた人間と動物との共生のための活動の１つです。人間とその他の生物とが適切な関係において共生できる世界。それは「持続可能な社会」の１つの形です。
猪肉を食べてからというもの、「住宅街に猪が出没」なんてニュースを見ると「食べたいな」と思うようになりました。
新たな知識や体験は、身の回りの世界の見え方を変化させます。多くの方々にそんなきっかけを提供できるよう、私ミカタブラックは猪突猛進していきます。

＜お詫び＞
「教えてちょっとだけ国際理解教育」のコーナーを紙面の都合上、今回はお休みさせていただきます。

ミカタまんが
みんなで水遊び

今月の写真

これはなんでしょう？

「モアナと伝説の海」見ました？
この場所、劇中で結構大事な役目です。

紙面の都合上サイズが小さくなっていますので、大きな写真は世界のミカタのホームページでご確認ください。

グローバル化が進むにつれて、教育熱心なママたちの間で話題に上がるのがバイリンガル教育。
実は私も娘をバイリンガルにしたいと思っています。
以前住んでいたマレーシアでは3~4か国語話せるのも珍しくなく、語学学校や大学のないミクロネシア連邦でも、当たり前のように母国語と第二言語が話されていました。
はてさて、日本との違いはなんでしょうか。
それはきっと高度な知識まで日本語化されていることに一つの理由があるのではないでしょうか。日本では大学の勉強ですら母国語でできます。ちなみに、ミクロネシアでは小学校ですら外国の教科書で授業をしなければいけない状況でした。高度に発達しているが故にバイリンガル教育に苦戦する日本と、未発達故に自然にバイリンガルな国。
なんだかおかしいですね。

ちなつママの
グローバル子育て日記